

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>①保育園について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出産をして、育児休業中に子どもが保育園に入れなかったので仕事を辞めた。どのようなタイミングでも保育園に入れるようにしてもらいたい。 	<p>【市長】</p> <p>どのようなタイミングでも保育園に入れるようにすることが、今の課題である。</p> <p>現在、各区に保育所のマッチングをする専任の相談員を配置している。本市は二年連続で待機児童ゼロであるが、本当に入りたい保育所に入れていないなどの保留児童がたくさんいるのが実態だ。</p> <p>まずは、その受け皿作りを行っているところ。特に年少のお子さんの受け皿が少ないので、充実させるよう、近年がんばってきた。</p> <p>次に、保育の人材が不足しているので、確保に努めていきたい。</p> <p>ご意見を踏まえてしっかりと保育体制を整えていきたい。また、市役所や区役所にマッチングの担当がいるので、ぜひ相談してほしい。</p>	健康福祉局	保育幼稚園課

No.	ご意見	回答	局	担当課
2	<p>②避難所の物資について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このたびの熊本地震で、私は物資を配るなどのボランティアを始めたが、そのきっかけは自助の限界を見たからだ。 ・指定避難所にいない方には食べ物が配られなかった。避難所に避難できる方は比較的健康な方だ。介護をされている方や新生児の面倒を見ている方、精神面の理由から集団に入れない方など、さまざまな事情で指定避難所に行けず、軒先避難や車中泊をしている。 ある人が秋津の体育館でおにぎりを求めたら、市の職員が、ここに避難していない人には渡せないと答えていた。そこで、私は、このような自助の限界にある方に物資を届ける活動を始めたしだいで。 ・市長は、このような状況であったことを知っていたか。 ・同じような震災が起こった時に、今後はどのような流れで市民に物資が届くのか。 	<p>【市長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発災直後から、できるだけ多くの物資を皆さんのもとへ届けるようにと指示していたが、実際にはあまり届けることができなかったことを承知している。 ・本市には発災後4日目で物資が届き始めたが、なかなか行きわたらず、2時間並んでもパン一個しかもらえないなど、市としていたらないことがあったことを、市民の皆様にも申し訳なく思う。 ・また、職員が頑なにルールを守る（指定避難所でいただいた物資なので指定避難所で配布するなど）ことについても、もっと柔軟に対応できなかったのかとの批判があることも、承知している。 ・避難所にいない人の声を聞くためSNSなどのツールを活かした体制を作っている。 ・この前の震災は11万人が避難したと言われているが、全体の実数としてはまだいたのではないかと思われる。ところが用意していた備蓄は3万6千5百人分で、これは当時の地域防災計画に基づいて決めていたものだった。 ・教訓・反省を踏まえ、平成29年度から新しい「地域防災計画」がスタートした。新計画では、想定避難者数を11万人に倍増させ、発災直後22万食を準備している。しかし、これも熊本市民全体の食料を確保しているものではない。皆さんにも、備蓄をお願いしたい。自助の限界もあるが、公助の限界もある。そして、自助と公助の間を埋めていくのが共助であり、まさに活動された内容がその共助にあたる。 ・平成28年度5000人市民アンケートで「備蓄しているか」との問いに、震災前には「備蓄していなかった」と答えた人が63.3パーセントにのぼったが、震災後に備蓄していない人は14パーセントへと、大幅に減少している。 まずは自助。その限界がきたら共助でサポートする。さらに公助でカバーする体制でのぞみたい。 	<p>政策局 市民局</p>	<p>危機管理防災総室 広聴課</p>

No.	ご意見	回答	局	担当課
3	<p>①防災訓練について 現在北朝鮮がミサイルを発射しているが、熊本市として、そして東区として、秋津として、防災訓練はどのようにしていくのか。</p>	<p>【市長】 Jアラートの訓練については、鳴るかどうかの訓練を国、県、市で実施済みだが、実際に鳴らす訓練は平成29年9月に実施しようとしていたが中止した。なぜならその時期は北朝鮮が多くのミサイルを飛ばしており、実際にJアラートを熊本市民全員に聞かせるとかえって不安を煽り、混乱をしてしまうと判断したからだ。まずは、このようなアラートが鳴るといふ周知が必要だと思っている。 現在、危機管理防災総室が市民に対してJアラートがどういう形で鳴るのかテレビやホームページを使い、周知している。 次に、災害の訓練としては、今月中（平成30年1月）に抜き打ちの訓練が職員向けに行われる。いつ行われるか市長も聞かされていない。このように訓練も変えていきながらリアルに行うようにしている。 市民の皆さんも、家具が倒れてこないようにするなど、最低限自分のできることをしていただければと思う。</p>	政策局	危機管理防災総室
4	<p>①育成クラブについて ・現状では8時～18時までの開設時間だが、朝7時から夜19時まで拡充してほしい。 ・対象学年を、現在1年生から3年生までだが、全学年までに広げてほしい。 ・担当である青少年育成課に今の要望を電話で伝えたところ、「すでに市できまっているので難しい。育成クラブの先生のなり手の問題や市内全校での対応ができない。」との回答であった。 ・福岡市では19時までの延長時間があり、月7,000円で実施している。熊本市でも福岡市を参考に体制を整えてほしい。</p>	<p>【市長】 働く方の状況を考えると、8時～18時までの開設では通勤状況やいろんな仕事の関係もありなかなか難しい。できるだけ考えていきたい。 ただ、指導員の方が集まらないなど課題があり、スペースも足りていない。現在、学校と協力してスペース確保に努めている。 まずは、受け皿づくりと人づくり。その体制が整った後に、段階的に、時間や対象学年の拡充など、できるだけ子育てがしやすいような環境を作っていくことは大変重要だと思っている。 他の自治体の良い事例も参考にしながら、やらせていただきたい。</p>	教育委員会	青少年教育課

No.	ご意見	回答	局	担当課
	<p>①自宅再建について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害公営住宅が150戸とのことで、これは少ないのではないかと。もっと多く建設してもらいたい。 ・市営住宅や県営住宅に入ってもらおうと言う話を聞くと、そのような住宅は個人的に古く感じる。 	<p>【市長】</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅に住まいの方に対し、自宅を再建予定か、民間賃貸住宅に住むのか、公営住宅に住むのかなどの意向調査を12月に終え、現在集計中である。 ・市営住宅の中にも新しいところはある。 ・災害公営住宅は、建てないということではない。なるべく早く建築する必要があることから用地の確保がしやすいところを先に建築する。時間がかかってしまうが早く建設に移れるようにしたい。 ・今後、意向調査の結果を踏まえて、建築戸数を増やす可能性もある。 <p>-----</p> <p>【震災住宅支援課 追記（進捗状況）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災者向け公営住宅申込みの結果を踏まえ、これまで150戸を整備する計画であった災害公営住宅に加え、市営・県営住宅の既存ストックが不足する中央区と南区の城南地域に新たに災害公営住宅160戸を追加整備する。（1月24日市長記者会見） 	都市建設局	震災住宅支援課
5	<p>②桜町再開発や熊本城の復旧について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反対してはいないが、税金を多く使う熊本城の復旧、桜町再開発は市民の意見を聞いてないのではないかと。一部の人で決めてしまっているように思う。 熊本城にエレベーターが必要なのか。コンクリート製でいいのか。便利でもあるが、経済性優先、便利性優先では、将来いきづまるのではないかと。人間が優先。市民の意見を聞いてみんなに分かるように説明してほしい。 	<p>【市長】</p> <p>②</p> <p>市の施策は勝手に進めているわけではなく、熊本城復旧基本計画は議会での議論も踏まえて報告をされており、その上で現在パブリックコメントも行っている。</p> <p>熊本城のエレベーター建設もさまざまな方の意見を聞いて決定している。</p> <p>-----</p> <p>【都心活性推進課 追記】</p> <p>桜町再開発事業については、市民の皆様と対話をしながら、最終的に議会で審議していただき決定したものである。今後も市民の皆様からご意見をいただきながら、利用しやすいように検討していく。</p> <p>【熊本城総合事務所 追記】</p> <p>3月までに天守閣へのエレベーター設置も含め、熊本城の復旧に向けた熊本城復旧基本計画を策定する。その策定委員会には、各分野の専門の皆様はもとより市民の皆様から公募した方にも入っていただいているほか、熊本城に関するオープンハウスやワークショップ、市民シンポジウム等のイベントの開催やパブリックコメント（H30.1.5～H30.2.3）の実施を通して、広く市民の皆様のご意見をいただいている、そのご意見を出来る限り可能な範囲で計画や今後の復旧に反映することとしている。</p> <p>なお、エレベーターについては、障がい者・高齢者など階段での昇降が困難な方のみを利用対象としたものであり、全ての来城者が移動しやすいように取り組むものである。</p>	都市建設局 経済観光局	都心活性推進課 熊本城総合事務所

「ドンドン語ろう！ in秋津」 平成30年1月14日 秋津まちづくりセンター 意見交換内容 参加者：53名

No.	ご意見	回答	局	担当課
6	①駐輪場の有料の件について 街中に自転車がよく行くので駐輪場の無料化を検討してもらいたい。そうすれば健康増進にも役立ち、渋滞の緩和に繋がるのではないか。	【市長】 ・有料化は意味があり、放置自転車対策や通町筋の状況改善のために使わせてもらっている。以前は放置自転車のために車椅子の方が通れない状況などがあったが、現在は改善されている。 ・健康増進できるようなまちづくりに資するような自転車政策を進めていきたい。	都市建設局	自転車対策室
7	①まちづくりセンターの運営について 地域担当職員がよく動いてくれて、とてもよいシステムだと思う。互いにより関係を築いている。地域に入ってアドバイスしてくれるのでありがたい。礼を言いたい。	【市長】 ・お褒めの言葉をいただき、感謝申し上げます。 ・地域担当職員のさらなるスキルアップをはかり、その上で、今後どこまで地域にかかわっていくのかも検討していく。	市民局 東区役所	地域政策課 秋津まちづくりセンター
	②小学校区の区割りについて ・桜木校区と桜木東校区の区割りを変更できないか。 もともと桜木校区の人口が増えて桜木東が分校としてできたが、現在桜木小学校は児童数が減って空き教室があり、桜木東小学校は児童数が増えて教室が足りない。 ・両校の校長は意見も一致している。 ・教育委員会に電話したところ担当者の方は自分たちほど深刻に問題を捉えていない。 ・このような状況を詳しく聞きたい。	【市長】 ・校区の区割りの件は、ここだけではなく、市内のあちこちで聞く話だ。 ・学校の状況に合わせてすぐに小学校区を変えることは難しく、今すぐ答えが出るものではないが、学校の状況をよくみながら考えたい。 教育委員会に検討するよう伝える。	教育委員会	学務課
8	①地域まちづくり、空き家対策について 自分の地区は超高齢。発災後、夏になると庭木草木が生い茂り、電線にからまったりしていたが、そのままの状態で避難しているので、家の所有者と連絡がとれない。 市役所の空き家対策の課にすぐ対応してもらったが、周りの家がなくなっていくのがさみしい。子どもの声が聞こえず日常会話がない状態。そこで私は地域に声かけなどをして互いのつながりを持つと努めている。 行政からも、このような地域にアプローチし、支援してほしい。	【市長】 (No.10 への回答も含む。) ・防災上の問題と個人情報保護との兼ね合いは難しい。個人の財産権の問題もある。 ・しかし、倒木等で被害が出れば、所有者の責任となる。被害が出る前に、道路やまちなみを管理する市が所有者の方と話しながら、丁寧に対応できればと思う。	市民局 都市建設局 東区役所	地域政策課 建築指導課 東部土木センター 秋津まちづくりセンター

No.	ご意見	回答	局	担当課
9	<p>①熊本市電の活用について 市民病院の移転に伴い、新たに市電をそこまで引くプランを聞いており、賛成である。 そこで二つ提案がある。 1. 健軍から市民病院までの路線を歩道側に引くサイドリザベーションを考えてほしい。 法規制で路面の真ん中に軌道を敷く必要があることは承知しているが、その課題を克服し、熊本市が全国の手本となるよう取り組んでほしい。そして、路線バスと市電の停留所を共同にするなども検討できないか。 2. 市民病院の玄関近くまで乗り入れるようにしたら、利用者は便利だと思う。さらに市民病院の終点をループにしてはどうか。ぐるっとまわって市内に帰るとい形にするとよい。ヨーロッパではよく使われている手法である。検討してほしい。</p>	<p>【市長】 ・熊本は車社会。10分くらい歩くことは東京では当たり前であり、歩くことは健康まちづくりにつながる。また、障がい者や高齢の方でも乗りやすいバスや市電を活用することは重要だ。 一方で、なぜあそこだけ伸ばすのかとの意見もある。 ・自動車運転免許を返納した高齢者が増え、その高齢者を乗せてくれる人も将来いなくなることを考えなくてはならない。 そのために、将来への投資として、公共交通機関を整備することは大変重要であると考えており、利便性を高めていかねばならない。 ・歩道側に軌道を置くサイドリザベーションは、雨に濡れずに乗換えしやすい。 ・市電は地震の際も使われていた。現実的に延ばせるルートから少しずつ延ばしていきたい。</p>	都市建設局	交通政策課
10	<p>①木について 秋津校区に8メートルくらいの大木があり、強風等で倒れる危険性がある。地域で法務局に調べに行き所有者がわかったが、登録された住所にいなかった。区役所や危機管理防災総室に相談するもどうしようもないと言われる。市で急いで対応してもらえないか。</p> <p>②秋津浄化センターの跡地について 秋津小学校からの通学路になっているが、行き止まりになってしまう。今後の計画を教えてください。</p> <p>③インフラの整備について 震災後に秋津のまちなみも変わってしまったが、秋津の夕日、飯田山の美しさなどは変わっていない。すばらしい散歩道である。 このような折に、秋津川の工事もあると聞いた。そこで提案だが、江津湖～秋津～益城を通るサイクリングロードを整備してはどうか。途中で健軍商店街、横井小楠記念館など健康産業、観光資源もたくさんあるので検討してほしい。</p>	<p>【市長】 (No.8への回答も含む。) ・防災上の問題と個人情報保護との兼ね合いは難しい。個人の財産権の問題もある。 ・しかし、倒木等で被害が出れば、所有者の責任となる。被害が出る前に、道路やまちなみを管理する市が所有者の方と話しながら、丁寧に対応できればと思う。 ・インフラの整備については、老朽化対策とは別に、道路やサイクリングロードを作ってほしいとのご意見をいただいた。 今後も、改善してほしい、通学路が危ない、歩道が危ないなど、インフラの整備についてぜひご意見を寄せていただきたい。</p> <p>----- 【浄化対策課 追記】 秋津浄化センターの跡地の一部については、熊本地震により住宅に困窮する被災者を対象とする災害公営住宅の建設用地としての活用が予定されている。 残地については、施設所管課が、残存する建造物の撤去に向けた準備を進めており、今後、全庁的に活用策を検討することになっている。</p>	環境局 都市建設局	浄化対策課 道路整備課 東部土木センター

No.	ご意見	回答	局	担当課
11	<p>①熊本城ホールについて マイスについては反対だ。 (被災した)市民の税金から170億円もマイスに出して、市民は安く利用できるというわけではない。税金は、もっと活かした使い方をしてほしい。 熊本城も時間をかけて修理したらよい。まず、生きた人間がどう普段の生活を取り戻すことができるかを頑張してほしい。 これは自分個人の意見であるので、市長からの回答は特に必要ない。</p>	<p>【市長】 ・再開発については、一旦決まったことでもさらにご意見をいただきながら、改善し、市民の皆様が利用しやすいように検討していきたい。 ・私も、発災直後に問われた時もまずは人と、言っている。しかし、熊本城もそのままにしておくことはできない。財源の問題にしても、熊本城の修理を止めたからといって、そこに使われる財源が直ちに違うところに回せるかという、そういうことにはならない。熊本城の復旧と被災者の支援とは必ずしも対立する問題ではないと考えている。 ・市民の生活を早く復興することが、震災復興計画の最上位にある。ご不満はあるだろうが、今後もしっかりと意見を聞いて取り組んでいきたい。</p>	経済観光局	新ホールマネジメント課 熊本城総合事務所
12	<p>②原発と立野ダムについて 原発について市長の考えを聞きたい。もし川内原発で事故が起こったら熊本に被災者、犠牲者が出ると思う。市の対策をおしえてほしい。 また、立野ダムについても市長の考えを聞きたい。</p>	<p>【市長】 ・事業主体が国のものは、国で安全性をきちんとやってほしい。 ・危険なものは困る。川内原発は2回視察したことがあり。どのようなリスクがあるか県でも議論されている。国に対して、危険がないような対策がなされるよう、全力でお願いしていく。</p>	政策局 都市建設局	危機管理防災総室 河川課
13	<p>③ツイッターについて SNSは使い方しだいでとても有用である。また一方で「炎上」もある。 市長のツイッターは、朝の目覚めの曲の紹介などのような遊びや趣味でなく、行政の情報を発信した方がよい。</p>	<p>【市長】 ツイッターの使い方について、特にこだわっているわけではないが、普段は皆さんが関心を持ってもらえるようやわらかい内容で投稿していて、いざと言う時に皆さんに有益な情報がいくように思っている。 私はコミュニケーションは対面とするべきであり、対話が基本であると思っている。子どもたちにそう教えていきたい。 普段からこの「ドンドン語ろう」のように直接対話を実施し、その上でのSNS活用であれば、とても便利なツールだと思う。デマも本当のことも流れている中で、それを見分ける能力が必要なことを、子どもたちに教えていきたい。 顔の見えないツールは、極端に話が振れるので議論のツールには向いていないと思っている。 市長としてSNSの発信にもっと良い使い方があるのではないかとご提案いただき、ごもっともだと思うが、私としては、できるだけ直接対話の機会を増やしていきたい。</p>	市民局	広聴課